

課題対応取組み報告書

【共通】

名称	西成区 成南地域総合相談窓口（ランチ）
提出日	令和6 年 6 月 20 日

カテゴリー （※主なものをひとつチェック）	<input type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設（居場所づくり等）
	<input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援	<input checked="" type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
	<input type="checkbox"/> その他（ ）	
活動テーマ	地域の特徴を生かした介護予防	
地域ケア会議から 見えてきた課題	①コロナ後、下肢筋力が低下し、歩行が不安定な地域高齢者が増加。 ②コロナ後、地域高齢者の表情が乏しくなり、住民同士の関係性が希薄になった。 ③コロナ後も、地域との交流を制限する高齢者が一定の割合で存在。	
対象	地域の高齢者	
地域特性	①子供の頃から結婚してから等、長く地域で暮らしている高齢者が多い。 ②お祭りなど地域活動がまだ現存している。 ③長く商店街で商売をしてきた高齢者が多い。 ④地方からやってきた生活保護受給独居男性も多い。	
活動目標	健康教室を開催し、地域住民同士交流を図りながら、下肢筋力及び身体機能の維持と改善に取り組む	
活動内容 （具体的取組み）	【百歳体操 & 健康教室】 日時 月曜日 13:00～14:30 グループ分けによる月1回から2回の参加（毎週参加者もあり） 場所 社会福祉法人 慈福会 めぐみ3階会議室 内容 百歳体操 健康についての講義 リハビリ体操・脳トレ体操 対象 千本地域住民及び周辺地域住民で65歳以上の高齢者 スタッフ ボランティア（地域の医療介護職） 慈福会職員 ランチ職員 目的 ①地域住民に外出する機会・運動する機会・交流の場の提供 ②ボランティア（医療介護職）による健康教室を開催し、介護予防の知識を紹介 ③リハビリ体操・脳トレ体操を紹介し、自宅での継続を図る	
成果 （根拠となる資料等が あれば添付すること）	【参加人数】 ①コロナ前は25人の参加があったが、コロナ後は12人に減少。 ②地域での周知活動と地域住民のネットワークにより14人の新参加。コロナ前の参加人数に改善。 【地域の理学療法士による評価】 ①歩行が不安定であった3人の高齢者に下肢筋力の改善が見られた。 ②レクリエーションを通して、地域住民の交流が回復。住民の表情が豊かになり、笑顔が多々見られるようになった。	
今後の課題	【地域住民の意向】 ・地域住民の多くは、介護保険サービスを使わないで住み慣れた地域で生活を継続することが希望。 【ボランティアの理学療法士の指導】 ・ボランティアの方が健康教室の講師を継続できるようにするにはどうしたらよいか。 【地域への介護予防の周知活動】 ・どのように地域住民を巻き込んで、高齢者の介護予防に取り組んでいくのか。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月22日(月)	
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性・拡張性 <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議 会からの意見等を記載。	百歳体操や健康教室を開催し、地域住民同士の交流もはかりながら、介護予防で大切な下肢筋力や身体機能の維持に努めている。地域の理学療法士も参加し、筋力改善の効果を評価しており、引き続き地域での介護予防活動に期待している。	